

# 宮崎大学医学部附属病院 病理 専門修練プログラム

## 1. プログラムの概略・特徴

本プログラムは、病理専門医取得を目指す医師が対象である。病理専門医は、日本病理学会認定病理専門医試験に合格することで取得できるが、受験資格として初期研修修了後、病理専門医研修指導医の下、最低4年の研修を行い、病理専門医研修手帳の提出を必要とし、研修手帳に掲げられている項目をすべて履修・経験することを求められる。これらを充たすために、病理解剖、生検・手術症例の病理診断及び細胞診など、病理医の日常的な業務を通じて、病理学に関する基本的知識・技術を身につけることを目的とする。研修は基本的に宮崎大学医学部附属病院病理部及び病理学講座を中心に行うが、適宜、連携大学院及び関連病院において、様々な疾患・診断方法を体験することができる。また、病理学系大学院に進学し、研究を行いながら本コースに準じた研修を受けることも可能である。

## 2. 研修目標

### 【一般目標】

- ・ 卒前・卒後教育において習得した各種疾患の病理、ならびに病理学と関連する臨床的事項について基本的知識を更に発展させること。
- ・ 病態を正確に認識し、かつこれを表現する能力を有し、的確な病理診断を下しうること。さらに、疾患診断や予後判定とともに、治療方針や研究方針について病理学的立場から臨床医に助言を行い、必要に応じて批判も行いうること。
- ・ 病理解剖・生検手術材料・細胞診検体の取り扱いおよびそれらの診断を通して病理業務の流れを理解し、病理医として必要な基本諸技能を習得していること。
- ・ 患者およびその家族の立場を尊重し、他の医師および関係者と協調して医療にあたる基本的態度を有すること。
- ・ 疾病を臨床と病理所見の両側面から理解して、各疾患の病態をより具体的に、深く理解すること。
- ・ 各症例の診断、治療における病理と臨床各科との連携の重要性を理解すること。
- ・ 病理の医療における役割、意義、重要性を理解すること。

### 【行動目標】

#### ①病理解剖（剖検）

- ・ 剖検の意義を認識し、死体解剖保存法などの基本的な法知識を有すること。
- ・ 病理解剖の基本的な手技を習得すること。
- ・ 感染防止対策等の指示することができ、当該症例に最も適切な解剖方法を選び、遂行することができること。
- ・ 肉眼所見を正しく把握、理解し、解剖時に可能な限り病理解剖学的診断を下すことができること。
- ・ 標本作製のための適切な切出しを行うことができること。必要に応じた特殊検索（捺印細胞診、電子顕微鏡的検索、免疫組織・細胞学的検索、分子病理学的検索など）を行うことができること。
- ・ 臨床方法、生前の組織診断等を参照し、肉眼所見、組織学的所見を総合して、的確な病理解剖報告書を作成、報告することができること。

#### ②生検・手術材料の病理診断

- ・ 生検の病理診断が患者の治療方針、予後判定の重要な指標となることを十分認識すること。
- ・ 病理組織検体検査について社会保険診療報酬、感染検体の取り扱い、医療廃棄物の取り扱いなどの基

本的知識を有していること。

- ・ 検体の肉眼所見を記載し、必要に応じてスケッチし、写真を撮り、検査目的に合致した固定と切出しを行えること。
- ・ 必要に応じて、特殊検索（捺印細胞診、電子顕微鏡的検索、免疫組織・細胞学的検索、分子病理学的検索など）を行うだけの知識と適切に処置することができること。
- ・ 組織標本のクオリティを判断し、改善の指示ができること。また、切片、ブロックや報告書の管理について理解できること。
- ・ 正しい診断名を記載し、適切な報告書を作成することができること。
- ・ 自己の能力を認識し、必要に応じてコンサルテーション等を行えること。

### ③迅速病理診断

- ・ 凍結切片による迅速診断の意義と適応、凍結切片作製・染色を理解し、凍結切片に伴う迅速診断の限界を認識することができること。
- ・ 肉眼所見を正しく把握し、適切な切出しを行い、一定時間内に凍結切片による迅速診断を正しく手術室に報告することができること。

### ④細胞診

- ・ 各種検体（婦人科、喀痰、気管支洗浄、擦過、胸・腹水、尿、穿刺吸引など）を適切に処理できること。また、正しい検体の処理方法を臨床医に適切に指導できること。
- ・ 染色法（パピニコロー染色・ギムザ染色など）を理解し、自らも経験していること。細胞診に応用される特殊染色についての知識があること。
- ・ 細胞診標本のスクリーニングを行い、基本的病変を指摘することができること。
- ・ 可能な限り組織病変の、悪性腫瘍であれば組織型を推定できること。

## 3. 研修スケジュール（研修例）

卒後3年目 病理部医員もしくは病理学講座大学院生

卒後7年目 解剖資格（解剖経験数：20症例）取得後、病理専門医試験受験、博士号修得

卒後8年目以降 病理部もしくは病理学講座スタッフとして研究・教育・診療に従事。

希望があれば、国内外への留学も可能。関連病院・施設への出向・就職。

4. 評価 日本病理学会より専門医受験資格として「研修手帳」が発行されており、それに沿って目標への到達度を自己評価し、指導教官の評価を受け、解剖資格及び病理専門医取得を最終目標とする。

5. 募集人員 若干名

6. 実施責任者 プログラム指導者 病理部部长 浅田祐士郎、片岡寛章（併任、2年毎）

7. 指導責任者 丸塚浩助 病理部副部长・准教授 他

## 8. 関連施設、学会認定状況

宮崎大学医学部附属病院

熊本大学医学部附属病院

大分大学医学部附属病院

宮崎県立宮崎病院

宮崎県立延岡病院

宮崎県立日南病院

## 9. その他

宮崎医科大学（現、宮崎大学）開学以来30年間で、21名の病理専門医を輩出しており、宮崎県内に留まらず全国各地の大学病院及び市中病院で活躍している。

## 10. 連絡先

宮崎大学医学部附属病院 病理部

TEL&FAX : 0985-85-1873

E-mail : kmaru@med.miyazaki-u.ac.jp